

父とお酒とインボイス

横浜市立矢向中学校 3年 中山 裕理

私の父は会社で経理をしている。そんな父が去年一時期荒れていた。お休みの前の日には、何缶もお酒を飲んではお風呂で大騒ぎ。またある日は夜遅く帰り、やっぱりお酒を飲んで、ぬいぐるみを胴上げしつつ、壁に向かって弱音を吐いていた。見ている分には面白かったが、ちょっと心配だった。

何で父が荒れていたかと言うと、「インボイス」というものを、会社のグループ全体で実施するために、システムを整備して、社員に説明をして、子会社や取引先の人たちとも打ち合わせをして、その度に課題が出てきてそれをまた検討して…中々大変だったらしい。

父を悩ませた「インボイス」とは何か？調べてみた。消費税の制度で、一言で言うと、「売り手は消費税が正しく記載された請求書を発行し、買い手はそれを正しく保存する」ということらしい。私には「ふ～ん、簡単じゃない？」と感じられたが、結構大変のようで、父の会社も「適格請求書」つまり「インボイス」を発行するための登録番号を取り、それを何万枚と発行する請求書に印刷するためにコンピュータシステムを改修しなければならない。それだけでなく、インボイスの仕組みを業務に落とし込むために、消費税の税コードを新しく作ってコンピュータシステムに覚えさせ、取引の内容別に正しく税コードを使い分けられるように多くの社員を教育することでまた一苦勞。更には、取引先が、「インボイス」を発行できないとまずいので大事な取引先に説明をしたり、更には取引先に怒鳴られながらお付き合いを見直したりとストレスのたまることばかりで、家での会話に「インボイス」という言葉が出るようになってから、ただでさえ心配な父の酒量はどんどん増えたような気がする。

テレワーク中（とはいえ夜中だが）に父が少しだけ、システムの仕様書を見せてくれた。ハッキリ言って何が何だか分からない。インボイスの基となる法律や会社内で説明する資料もを見せてくれた。やっぱり何が何だか分からない。

コロナ禍で大変な中、2022年度の税収が過去最高というニュースを見た。日本という国のあり方が色々難しい状況にあるのは私にも感じられるが、それでも働き、税を納め、日本を支えている人たちがいる。そして、父の様に税金を正しく納めるために、悩み、考えている人がいる。

そんな人たちの汗の向こう側に今の私がいる、今の私の学びがある。税について少し調べ、父の話を聞き、そんな思いを強くした。そして、私の学びを支えてくれる多くの人々に感謝したい気持ちになった。